

中国・北京科技大学短期留学プログラム 2013 の活動状況報告 (9月8日報告)

中国・北京科技大学短期留学プログラム 2013

大阪電気通信大学
デジタルゲーム学科

Y. I

9月8日のスケジュールは

午前 鳥の巣・北京科技大学本部の見学

午後 中国美術館の見学

以上の2つです。

午前

午前中は、北京オリンピックのスタジアムとなった「鳥の巣」と、「北京科技大学本部」の見学をしました。

遠くから鳥の巣に近づいていくにつれて、無数の鉄骨が曲線を描き、奇抜なデザインを生み出している様子が伺えました。近くから見るとその大きさにただただ圧巻されるばかりでした。



鳥の巣にて

北京科技大学本部では大学の規模に驚きました。北京科技大学の総面積は 67 万平方メートルもあり、東京ドーム約 14 個分の広さがあるそうです。大学構内には 15 階建てほどのマンションがいくつも建てられおり、なんとそれらの建物はすべて学生寮というのです。また大学構内には、北京オリンピックで柔道やテコンドーなどの試合が行われた北京科技大学体育館が建っていました。

日本の大学との違いすぎる規模の大きさを実感しました。



北京科技大学にて



北京科技大学体育館にて

午後

午後からは中国国内で最大級の規模を有する「中国美術館」を訪問しました。この建物は 4 階建ての建物で、中国画や民間芸術品などが展示されていました。ここでは主に近代の美術の展覧会が行われており、海外からの作品も多く展示されていました。

数多くの美術に触れ、中国の長い歴史に存在する美学を肌で感じる事が出来ました。

9月8日の感想

一日をかけて中国の規模や芸術作品を目で見て、体で感じました。今日は移動時間が長く、少し疲れましたが、とても充実した一日となりました。

残された時間も短いですが、もっと多くのことに触れたいと思っています。

中国・北京科技大学短期留学プログラム 2013 の活動状況報告 (9月9日報告)

9/6 (金) 感想 文: Y. I

朝が早い。眠い体を起こして今日は万里の長城と明の十三陵に向かいます。朝早くから自分達だけのために、楊先生と李先生が車を運転して連れて下さったことに、とても感謝です。いつもながら北京科技大学の学生さん達も同行してくれ、本当に手厚く大事にしてくれて、感謝感謝です。北京近郊とはいえ、さすが大国、とにかく移動時間が長く、2時間は走ったでしょうか・・・ようやく山が見えてきました。



まず、日本の植生と全く違うことに気が付きました。高山でもないのに木々の背が低い。正確な標高は調べていませんが気温差がほとんどないことから 800~1000m といったところでしょうか。あとは日本と違って岩がむき出しになっている部分が多いですね。そんな事を考えていると見えてきました、万里の長城です。

ところがまだ到着ではなく、もう少し道を上る必要があります、先に進みます。高速の出口が駐車場になっていて、ここで万里の長城行きのバスに乗り換えます。



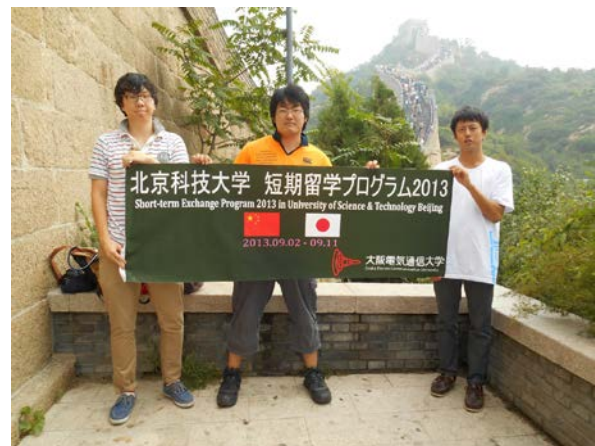
中継地点に着いて、ここでバスを降ります。奥が万里の長城の麓です。奥が・・・奥に着くと山が開かれている地形が変わりました。いっきに中国の山々が連なる地形が見えてきました。テンションが上がってきます。



スタート付近から撮った万里の長城ですが先がとにかく長い！！ゆっくり上っていきましょう。歩いた感じは歩きやすい登山といった感じでした。道中では思ったほど疲れませんでした。



途中で少し休憩した時の写真がこれです。万里の長城の壮大さを感じさせてくれます。日本と決定的に違うのは、ここが一番高いという山が少ない事です。同じような高さの山が並んでいる風景はここでしか見られないものだと思います。おみやげも買い。少し上った後に下山です。途中で留学プログラムの横断幕を広げて写真を撮りました。幕を広げる場所をかなり選んで人が少ない側道でとりましたが、なかなかいい写真に仕上がりました。



その後、みんなで食事をしました。このプログラムの期間中に日本では普段食べることができない珍しいものをたくさん食べることができ、本当に貴重な体験ができました。それも今日のような高価な料理から、お手頃な料理までいろいろなものを食べる機会がありましたが、中国は本当に食文化が豊かなことを実感しました。円卓を囲んで食事するスタイルが僕は好きなので味だけではなく、雰囲気も楽しめます。



食事が終わった後は、移動して明の十三陵に行きます。朝が早かったこともあって移動中の車内で爆睡する一同。しばらくすると十三陵の入口です。ここから一番大きい長陵を目指します。入口といっても点在する陵墓の入口なので、まだ車で移動します。

長陵が一番大きいと言われますが、着いて地図をみるとシンプルなものだったのでそんなに広くないじゃん！！と思ったのですが・・・終着点から見るとさすがにスケールが大きく、こんな感じでした。





途中にあったものを紹介すると左が永楽帝成祖の像です。ここは博物館も兼ねていて、食器等が展示されていました。続いて右が5つの願いが描かれた壺です。“福、長寿、お金、出世、喜び”で僕はお金を入れました。

次いで、地下に陵墓がある定陵です。ここも道中がものすごく長いです。万里の長城も歩いているだけにかなりキツイです。地下への入口には手荷物チェックもあり厳重です。

地下はかなり涼しく、肌寒いと思うほどでした。そして、中国ではお賽銭のような風習かはわかりませんが、この陵墓には結構お金が置いてありました。しかし、回収するものでもないらしく、山積みでした。下の写真は皇妃の椅子らしく、皇帝の椅子もありました。





最後は北京ダックの老舗“全聚德”で晚餐です。まだ、最終日ではないですが、先生たちが都合をつけて皆さん集まって、僕達のためにわざわざ送別会を開いてくださいました。非常に豪華なお店に連れていってもらえてご馳走になりうれしかったです。

人生で北京ダックを食べるのは初めてですが、クセのない味で非常においしかったです。特に皮に砂糖をつける食べ方が最高でしたが、僕自身ビールと鶏肉が大好きな事もあって非常においしく食べられました。

いい具合に酔いが回ってきたときに中国語のテストです。覚えたセンテンスを5個くらいは言えるようになってほしいとの事でしたが、10個くらいは覚えられました。授業を受けたこともあって基本的な文法整理ができたのでよかったです。後日談ですが、この後、お店で値段を聞いて買い物したり、空港のチェックカウンターで3人並んで席を選んでもらうように頼んだりはできたので、日本で中国語の授業を受けて無い割には上達したと思います。発音は繰り返す事でしか向上しないので練習あるのみです。

中国・北京科技大短期留学プログラム 2013

大阪電気通信大学大学院
コンピュータサイエンス専攻
Y. K

9月10日

本日のスケジュール

- 午前：天安門広場
- 午後：天壇公園&北京大柵欄西街

以上です。

午前

今日は天安門広場へ向かい、実際に天安門を見学。しかしその前に「小さい店だけど、昔から代々味を引き継いで、今まで営業してきた有名なお店がある」と李先生にお聞きし、李小老というお店に朝ごはんを食べに行った。



中に肉などの具財が入っている

テーブルにつき、たまたま日本語で話していたところ、隣に座っていた男性から声をかけられ少しお話することに。実はその男性、東京にある大学で教鞭をとっておられ、今回たまたま帰国しているとのこと。日本語もお上手で、短期留学プログラムのお話や、李小老についてお話することが出来た。「ここは有名なお店で、北京に来た人には是非一度来ていただきたいお店です」と仰ってました。初めて行ったお店で、なんだか不思議な縁を感じた朝でした。

そして天安門広場へ。今回のプログラムの中で、一度も利用したこと無かった地下鉄で移動することに。地下鉄の料金は一律で2元。1駅でも3路線乗り換えて移動しても同じ値段。切符はプラスチック製のICカード。改札を出るときに回収され、再利用されるととてもエコな切符です。そして、駅に入るときには荷物検査がある。日本でも空港にあるようなX線検査機、金属探知機を利用する。駅だけに限らず、今回のプログラムで訪れた、美術館や十三陵にも設置されている。日本の街中ではほとんど見られない光景に、少し緊張しつつ渡した手荷物を受け取り、地下鉄で目的地である天安門広場へ。



実際に行ってみてわかる広さ



広場と反対の位置での記念撮影

広いと聞いていても、実際に行ってみないとわからない広さってありますよね？天安門広場はそんな場所のひとつだと思います。見渡す限りの人人人。ツアーのお客さんも多い多い…

現地で申くんとも合流。彼は日本のユニクロで買ったという I love 銀座 T シャツを着ていました。命名：銀座 BOY。

そして天安門をくぐり入場。30分ほど見学しつつ移動し、何度目かの門をくぐった先には「一息つくには、まだ早いぜ！」といわんばかりの屋根の数！！



真ん中あたりの小さい建物が一番奥だとか

え？今までの全部外側？？マジで？？そんな馬鹿な(´°д°`)

どうやら広いのは外の広場だけではないらしい…

その後1時間ほどかけて端まで移動し、天安門を出た後は昼食をとるために王府井大街へ移動。3人はタクシーで、3人はタクシーが捕まらず、バスで移動することに。



天安門見学中、ベンチを見つけ一休み

バス組の我々3人は、日曜日に見学した中国美術館前から徒歩で移動することに。1kmほど歩いた様だが、知らない町並みを他愛のない会話をしながら進んだことで、目的地まで距離を感じることは無かった。



Apple Store を発見！

Apple Store を発見し撮影。この交差点で、先に到着していた3人と合流。近くの広場では、世界の旅行会社のイベントが開催されており、中国語で各国の旅行会社がそれぞれのブースを構え、訪れる人々へアピールしていた。



イベントでの旅行会社のブース、様々な国の人が歩いていた



近くのお店で売っていた食べ物
ヒトデや蛸がいっぱい…

一通り見て回った後、傍にあった中国移動(中国の携帯電話会社)のショップへ行き、NOKIAの一番安い携帯電話を購入した。日本で使うことは出来ないが、自身の記念品として購入。電話機の購入に関しキャリアとの契約は必要なく、気軽に本体のみ買うことが可能なのは日本と違うところ。日本で携帯電話やスマートフォンを買うには基本的に携帯電話会社(docomo、softbank、au、e-mobile等)との契約が必須であり、電話機単体のみの購入は不可。それが良いか悪いかはさて置いて、個人的には気に入らないシステムだ。データ通信の速度は速くて良いですけどね！

食事のために向かいにあったデパートへ行き、中国でも有名なしゃぶしゃぶのチェーン店「呷哺呷哺」へ。「何が食べたい？」に対して「肉！」としか言ってない日本勢3人組にはありがたいお店。実はどんなものがあるのか、よくわかっていないだけだったりする。牛肉や羊の肉を、唐辛子や山椒の入った鍋で湯掻き食べる。昼間から贅沢ではなかろうか。体重が増えてないか心配である…(帰国後測定。出発前より減っていた！大勝利！！)



吉野家、Subway、味千ラーメン、ピザハット
ここは日本だよ？と言っても通じそうな雰囲気

午後

天壇公園へ。世界文化遺産とチケットに大きく書いてある。確かにそれは重要だ。ここ、天壇公園も天安門広場に負けず劣らずの敷地を有し、円筒形の美しい建物を見ることが出来る。中には日本の神社のように、祭られている何かがあったのだが、その正体は見ただけではわからなかった。すまぬ。

また、この建物の建築様式は日本の古い建物に共通するところもあるらしく「この屋根の部分の写真撮っという！」と言っていたのは、3人の中でも伝統工芸に詳しいくんだった。中国と日本の違いについては前回やその前のレポートに関して触れたが、似ている部分について書いたことは無かった。両国に古くからある建物で共通する部分があることは、とても歴史的なロマンがあって良いと思いませんか？古より交流のある国同士だからこそ、こういう発見や感動もあるのだろうと思った。



正面から見た全景



凹っぼい形の部分が似ているらしい

この後祈年殿に移動。閉園間近の為、他の場所より観光客が少なくなっていた。



祈年殿。おそらく一番大きい建物



正面で記念撮影！

そろそろ出てねといわれた気がするので、ほどほどにして退場。本日の最終目的地である北京大柵欄西街へ。ここもバスで移動。中国のバスは日本のバスより大きい。そして長い。日本で運行している路線バスに、蛇腹(電車の車両の間みたいな感じ)でさらに半分~1車両つながっている。見た感じ牽引トレーラー並みの車両の長さくらいある。わかりやすい写真が無かったので気になる人は調べてね！ちなみに料金は1元とのこと。

そして大柵欄西街へ。ここはおみやげ物屋が多く立ち並び、利用者も多い。お菓子や雑貨、お酒などの取り扱いの店が多く、北京のおみやげなら一通り揃う。私はおみやげを持って帰るためのスーツケースを購入した。180元。ここで買ったどのおみやげより高かった。ちなみに元の値段は199元。一緒に来てくれていた趙さんが交渉してくれた。2日連続ありがとう！(実は1日前の長城で50元の扇子を30元にしてもらった)

各自おみやげを手に入れ、帰路。そして記念撮影！(撮影は近くにいたお姉さん、謝謝！)



その後、現地で申くんと別れ、帰りも地下鉄。荷物検査があるのを忘れてスーツケースを買った男がここに居た。

電車を乗り継ぎ、管庄まで帰ってくる。高くんとはここで別れ。彼は終点まで地下鉄で移動するとのこと。10日間ありがとう！（特に直近3日間）。残った4人でなれない道を進み、北京科技大管庄校区まで帰還。本日の全工程が終了し、同時に今回の短期留学プログラムの中国国内での行程は、明日日本に帰るというミッションを残すのみとなった。

感想

長いようで、短い10日間。現地の先生方・学生の皆さんが尽力してくれたおかげで、我々の短期留学プログラムは大きな問題も無く、ここまでくることが出来た。個人では体験することが難しい内容だったと思う。朝食後、地下鉄の駅に送ってもらった際、姜先生に千羽鶴を渡した。今日までのお礼と、この関係が末永く続いて欲しいという願いを込めてである。故に今回は100羽。今後の10年で完成させて欲しい。



【おまけ】9月11日 元気に帰国(関西国際空港にて)